



皆様のご協力をお願いします

赤い羽根共同募金運動

●「いわたの町を良くするしるし」寄付した方々の地域でいさる募金です。

「支える人を 支える募金」をキャッチコピーに掲げ、今年度も、10月1日～翌年3月31日まで赤い羽根共同募金運動が実施されます。

共同募金は、社会福祉法に基づく寄付金の募集で、民間団体である共同募金会が募金活動を展開しています。昭和22年（1947年）に「国民たすけあい運動」として始まった募金運動は、長年にわたって皆様のご支援とご協力に支えられ、今年で78回目を迎えます。

共同募金は、その多くが、寄付した方々がお住まいの市町村の社会福祉協議会や福祉団体、福祉のまちづくりを展開する団体、町内会等に助成され、ひとり暮らし高齢者の買い物支援や子ども食堂、福祉教育（ハンディキャップ体験等）、夏祭りなどの地域の世代間交流や町内会の備品整備等、住民の皆さんが必要とする活動やサービスに活用されています。

また、大規模災害の発生時には、災害ボランティアセンター等の設置・運営資金としても活用され、今年1月に発生した令和6年能登半島地震災害の際は、本会からも800万円を石川県へ拠出しました。今年度も、皆が安心して暮らせるまちづくりを目指し、募金運動を展開してまいりますので、温かいご支援、ご協力をお願いします。

●共同募金目標額と募金運動

共同募金は、寄付が集まってきた使いみちを考える募金とは異なり、事前に使いみち（助成計画）や集める額（目標額）を定め、募金と助成に関する計画を立てて行う「計画募金」です。各市町村共同募金委員会では、自らの地域の「募金目標額」を達成するために必要な額を「目安額」として、各世帯に募金の協力を依頼しています。募金運動は、地区の自治会の役員や民生委員、地域の学生などの募金ボランティアの方々のご協力により

実施されます。募金には、各世帯からの協力による「戸別募金」のほか、地域のスーパーマーケット前やアーケードなどにて通行人を対象に実施される「街頭募金」、地域の産業まつりや福祉まつり等にて実施される「イベント募金」、福祉教育を目的として児童生徒により実施される「学校募金」、企業を対象とした「法人募金」や企業の従業員を対象とする「職域募金」があり、様々なところでご協力をお願いします。



令和5年度共同募金運動の様子

●募金の主な使いみち <<例えば、赤い羽根は、地域のこんな活動に使われています>>

社会福祉施設利用者へのサービス向上に向けた施設整備に（建物修繕、車両・機器整備）	710万円
社会福祉協議会や福祉団体等が行う地域福祉活動に（高齢者・障がい者・子育て家庭等にむけた活動、生活困窮者支援など）	1億3,000万円
ボランティア団体、町内会等の福祉のまちづくり活動に	400万円
災害支援に ・火災・風水害等による被災世帯への見舞金 ・大規模災害時に行う支援活動の準備金	100万円 1,047万円
歳末たすけあい助成に （一人暮らし高齢者・障がい者への激励金、児童養護施設入所児等への進学・就職支度金など） ※市町村により助成内容が異なります	1億2,522万円
県内の共同募金運動を推進するために（県共同募金会・市町村共同募金委員会の事務費など）	6,322万円

令和6年度の募金目標額

3億4,906万円

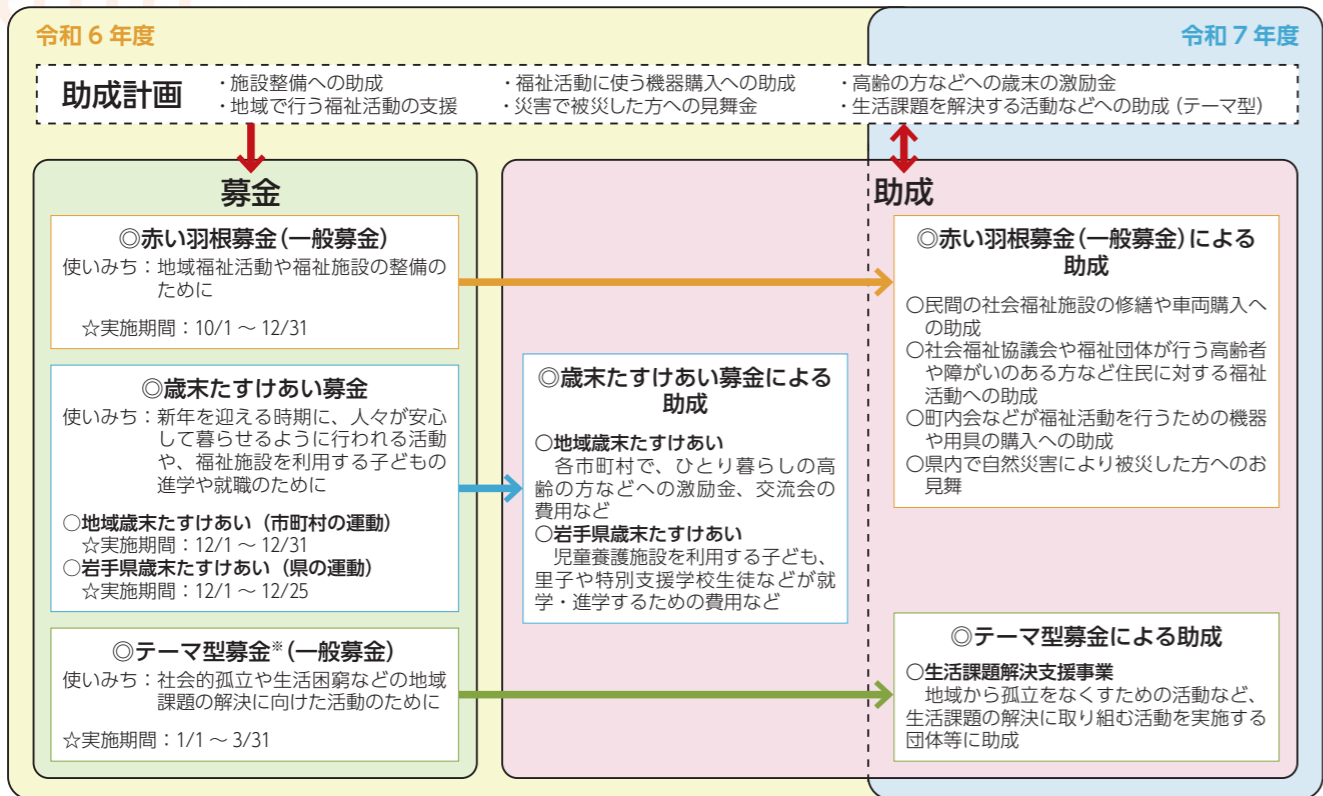
- 赤い羽根募金 2億1,910万円
- 歳末たすけあい募金 1億2,996万円



令和6年度共同募金運動ポスター

共同募金のしくみ

※共同募金に寄せられた募金は…
①区域内の地域福祉活動に助成（岩手県で集められた寄附金は、岩手県内（県域・市町村域）で活用）
②募金の3%相当額を「災害等準備金」として積立てし、大規模災害発生時に被災地でのボランティア活動の支援のために助成→積立期間（3年間）経過後は、取り崩して助成に活用



助成事例

●ふれあいホームあやおり園実行委員会（遠野市）

高齢者を対象としたサロンを行っており、コロナ禍を機に、自分たちで測定できるよう、助成金で血圧計や体重計等の器具を整備しました。

整備後は、毎回測定し参加者の健康管理と健康への動機づけを図っています。



●安渡町内会（大槌町）

震災前に地区内で毎年実施していたサマーキャンプを復活させるため、助成金でハンゴウやかまどなどを整備しました。

「自分で米を炊いてご飯を作る」という作業を子どもたちに体験させるとともに、親子のふれあいの時間の創出、世代間交流の促進につなげました。

